

読書のかたち

B組 倪子素

理想の「読書」はどんなものでしょうか。

想像してみましよう。涼しい午後、自分の家の中で、快適なソファに腰をかけて、好きな本を一冊手に持って、ゆっくり読みます。いかがでしょうか？私はこれが一番理想的な読書環境だと思っています。リラックスできる場所で、好きな本を読んで、ストレスなど少々忘れて、きつといい気持ちになるでしょう。では、この一冊の「本」を「電子書籍」とチェンジしたらどうでしょうか。

みなさんはどちらの方がいいと思っていますか？たぶん前者、つまり紙で作った普通の本の方が好きでしょう。「読書」と言えば、やはり本を持って読むこととずっと思っています。多くの人が予想より多いそうです。もしこの「本」が「タブレットPC」或いは「電子ブック」や「携帯のアプリ」などとチェンジしたら、何となく少し違和感がするでしょう。なぜか

という、私はこれが私達昔からの習慣がもたらした違和感と思、ています。

この間、私は友達に一つ簡単なアンケートをしました：「紙で作った本」と「電子書籍ど、ちが好きですかどうしてですか？

ほとんど全員が私に「紙で作った本の方が好き」と答えました。紙で作った本の触感、温度、質感などの「感覚」は電子の機械で取って代わらないものだからです。アンケートに参加した友達の中には、「電子書籍が嫌い」と答えた人もいました。その友達は「電子書籍を読むことは読書じゃない」と主張していました。その友達の主張で、実は「紙は取って代わらないもの」ということに私は気付きました。長い時間、積み重ねた読書の習慣をすぐに改変するのは難しいでしょう。

でも、電子書籍を読むことは、本当に「読書」とは言えないですか？私はそう思っています。

紙で作った本はたくさんの方が好きだとい

ういい点がありますけど、もちろん欠点もあ
ります。持、て出かけるのが大変、保管・整
理することが難しい、最も大きな問題はたく
さん買うとスペースが足りません。電子書籍
のいい点もたくさんあります。例えば整理に
便利、持、て出かけることも面倒くさくない。
買、た本はファイルのかたちで保存して、も
し壊れたら再びダウンロードすることができ
ます。たしかに今の液晶スクリーンと電子イ
ンクの技術は、長い時間快適に読むことはま
だできなくて、それに電力がなくなると読む
こともできないという最大の欠点があります。
けれども、電子書籍の普及は、今一つの趨勢
になっていきます。

世界で一番有名な百科事典《ブリタニカ百
科事典》は、今年の三月十三日で印刷版の発
行が終わ、たことが発表されて、今後は電子
版のみの発行とな、たそうです。この間、台
北駅の近くにある書店街の中で、四軒の書店
が倒産してしま、たそうです。でも、印刷の

本や書店が減ることは、本読む好きな人が減少することと等しくありません。読書はかたちだけが変わっています。

私達はちょうど二つの時代の真ん中にいます。五十年前、電子書籍などまだ存在しませんでした。五十年後紙で作った本はもうないかもしれません。私達は今、紙で作った本の触感と香りを感じることが出来ます。さらに、電子書籍の便利なところを利用することも出来ます。本当に幸運なことです。知識を得る方法は決してただ一つの道ではありません。同じく、読書ということも紙に限らないはず、私はそう思っています。